

青山学院大学に対する改善報告書検討結果

<大学評価実施年度：2021年度>

<改善報告書検討実施年度：2025年度>

青山学院大学から改善報告書の提出を受け、本協会は改善に向けた大学全体の取り組み、3点の是正勧告及び3点の改善課題の改善状況について検討を行った。その結果は、以下のとおりである。

<改善に向けた大学全体の取り組み>

大学全体の質保証を担う「教学マネジメント推進会議」において、大学評価によって明らかとなった課題の共有を行い、これを大学全体の優先課題として設定するとともに、対応方法、実行主体、取り組み期間等を定め、各学部・研究科及び全学組織との連携のもと、改善に取り組んでいることが認められる。

内部質保証については、抜本的な改善に取り組み、2024年4月に「教学マネジメント推進本部」を発足させ、この組織を中心とする新たな推進体制を構築している。ただし、新体制の本格的活動は始まったばかりであるため、今後の動きを確認する必要がある。大学評価で指摘された問題への取り組みには、成果が十分ではない点もみられるため、新体制のもとの確実な実行を期待したい。

<是正勧告、改善課題の改善状況>

提言の改善状況から、改善の成果が十分に表れているとはいえない。

是正勧告については、新たに整備した内部質保証システムが動き始めたばかりであり、その有効性についてはまだ確認ができないことから、今後、適切に運用されることが望まれる。また、教育課程の編成・実施方針の問題に関しては、一部の学部及び研究科について引き続き改善が求められる。

改善課題については、学習成果の測定の問題や学生の受け入れにおける定員管理の問題に関して、今後もさらなる改善に努めることが求められる。

個別の提言への改善に向けた大学の取り組み及びそれに対する評価は、各提言に対する検討所見のとおりである。なお、前回の大学評価時には指摘対象となっていなかった事項について、今回の改善報告書提出時には提言に相当する問題が生じているため、検討所見を参照し、次回の大学評価に向けて改善に取り組むことが求められる。

1. 是正勧告

No.	種 別	内 容
1	基準	基準2 内部質保証

青山学院大学

	<p>提言（全文）</p>	<p>「全学委員会」が検証機能を、「教学マネジメント推進会議」がそこから抽出された優先課題等の改善の取り組みを担う体制を作ったが、「教学マネジメント推進会議」が担う内部質保証に係る取り組みの位置づけに関する規程が整備できていない。また自己点検・評価チェックリストに基づき、「部局委員会」が自己点検・評価を行ってはいるものの、部局の点検・評価のあり方を「全学委員会」が検証し、改善・向上を促す仕組みが機能していない。その課題を踏まえ、全学内部質保証推進組織が今後速やかに各部局のPDCAサイクルのマネジメントに適切に関与し、着実に改善・向上を図るよう、是正されたい。</p>
	<p>検討所見</p>	<p>前回の大学評価における提言を受け、課題の解決に向けて抜本的に内部質保証体制の改善を図った。具体的には、新たに「教学マネジメント推進本部」を設置し、その下に「教学マネジメント推進センター」及び同センターの下に「FD推進室」「IR推進室」を位置付けた。また、同本部やセンター、各推進室の規則や細則も整備し、各組織の役割も明確にした。さらに、点検・評価の結果を踏まえた改善・向上を促す仕組みとしては、「教学マネジメント推進センター」が担うこととしている。</p> <p>このように、内部質保証システムについては改善が図られているが、自己点検・評価を含めた実際の運用は始まったばかりであるため、システムが機能するよう引き続き取り組んでいくことが求められる。</p>
<p>No.</p>	<p>種 別</p>	<p>内 容</p>
<p>2</p>	<p>基準</p>	<p>基準4 教育課程・学習成果</p>
	<p>提言（全文）</p>	<p>経済学研究科経済学専攻、同研究科公共・地域マネジメント専攻では、博士前期課程と博士後期課程において教育課程の編成・実施方針の内容が同一となっている。また、法学研究科私法専攻博士後期課程、同研究科公法専攻博士後期課程、国際政治経済</p>

		<p>学研究科国際コミュニケーション専攻博士後期課程では教育課程の編成、経済学部経済学科、国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻専門職学位課程、同研究科国際マネジメントサイエンス専攻一貫制博士課程両プログラムでは教育課程の実施、文学研究科日本文学・日本語専攻博士後期課程、理工学研究科複合フロンティアプログラムでは、教育課程の編成及び実施に関する基本的な考え方を具体的に示していない。さらに、国際マネジメント研究科国際マネジメントサイエンス専攻一貫制博士課程 Ph. D. プログラム及び同課程 D. B. A. プログラムでは、授与学位が異なるにも関わらず学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が共通のものとなっているため、是正されたい。</p>
<p>検討所見</p>		<p>法学研究科私法専攻博士後期課程、同研究科公法専攻博士後期課程、国際政治経済学研究科国際コミュニケーション専攻博士後期課程、国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻専門職学位課程、同研究科国際マネジメントサイエンス専攻一貫制博士課程両プログラムで教育課程の編成及び実施に関する基本的な考え方を明示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しており、改善が認められる。さらに、国際マネジメント研究科国際マネジメントサイエンス専攻一貫制博士課程 Ph. D. プログラム及び同課程 D. B. A. プログラムで授与学位に対応した学位授与方針を定め、公表しており、改善が認められる。なお、理工学研究科複合フロンティアプログラムについては、2023 年度をもって学生の募集を停止している。</p> <p>ただし、教育課程の編成・実施方針について、経済学研究科経済学専攻の博士前期・後期課程、同研究科公共・地域マネジメント専攻の博士前期・後期課程、文学研究科日本文学・日本語専攻博士後期課程では教育課程の編成及び実施に関する基本的な考え方を具体的に示していない。さらに、経済学部経済学科では教育課程の実施に関する基本的な考え方を具体的に示していないため、改善が求められ</p>

青山学院大学

No.	種 別	内 容
		る。
3	基準	基準5 学生の受け入れ
	提言（全文）	教育人間科学研究科教育学専攻及び同研究科心理学専攻において、博士前期課程と博士後期課程で学生の受け入れ方針の内容が同一となっているため、学位課程ごとに適切な方針を定めるよう、是正されたい。
	検討所見	教育人間科学研究科教育学専攻及び同研究科心理学専攻の博士前期課程と博士後期課程で学位課程に対応した学生の受け入れ方針を定め、大学ホームページにおいて公表しており、改善が認められる。

2. 改善課題

No.	種 別	内 容
1	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	国際政治経済学研究科国際政治学専攻修士課程、同研究科国際経済学専攻修士課程及び同研究科国際コミュニケーション専攻修士課程では学位論文及び特定課題の研究成果の審査基準が同一になっているため、改善が求められる。
	検討所見	国際政治経済学研究科国際政治学専攻修士課程、同研究科国際経済学専攻修士課程及び同研究科国際コミュニケーション専攻修士課程は、学位論文及び特定課題の研究成果の審査基準をそれぞれ定め、大学ホームページにおいて公表しており、改善が認められる。
No.	種 別	内 容
2	基準	基準4 教育課程・学習成果

青山学院大学

	提言（全文）	各授業科目の成績評価や授業改善のための学生アンケート等を行っているものの、各学部・研究科の学位授与方針に明示した学生の学習成果の適切な把握・評価するための仕組みが整っていないため、多角的かつ適切な方法でこれを実施するよう、改善が求められる。
	検討所見	「IR機能整備プロジェクト」において抽出された課題を踏まえ、同プロジェクトの活動を引き継いだ「IR推進室」が中心となって改善に取り組み、2025年度から学生調査（学部4年次生対象）の設問内容を、学位授与方針との関係性がより明示的となるよう改めた。ただし、各設問と各学部の学位授与方針に明示した学生の学習成果の項目は連関しておらず、研究科については具体的な対応ができていない。 学生の学習成果を適切に把握・評価する仕組みが整っているとはいいがたく、引き続き改善が求められる。
No.	種 別	内 容
3	基準	基準5 学生の受け入れ
	提言（全文）	収容定員に対する在籍学生数比率について、文学研究科博士前期課程は 0.43、法学研究科博士後期課程は 0.17、総合文化政策学研究科一貫制博士課程は 0.13、理工学研究科博士後期課程は 0.24 と低く、また、社会情報学研究科博士後期課程は 2.11 と高い。大学院の定員管理を徹底するよう、現在検討中の対応策の実施を含め、改善が求められる。
	検討所見	文学研究科博士前期課程、総合文化政策学研究科一貫制博士課程、理工学研究科博士後期課程、社会情報学研究科博士後期課程では、収容定員に対する在籍学生数比率の改善が認められる。 しかしながら、法学研究科博士後期課程では、収容定員に対する在籍学生数比率が 0.17 と依然として低く、引き続き改善が求められる。

青山学院大学

		<p>なお、大学評価時には提言の対象ではなかった研究科の収容定員に対する在籍学生数比率について、総合文化政策学研究科修士課程が 0.33、社会情報学研究科博士前期課程が 0.47、国際マネジメント研究科一貫制博士課程が 0.13 と低くなっている。</p> <p>「大学院活性化推進委員会」にて博士前期課程（修士課程）進学者増加のための施策の検討を開始しているものの、引き続き改善が求められる。</p>
--	--	---

<再度報告を求める事項>

なし

<弾力的措置にかかる要件の充足状況>

弾力的措置にかかる要件	前回の評価結果 における提言	改善状況
ア) 基準 2 「内部質保証」に関し、是正勧告及び改善課題のいずれも提言されていない。	有 (是正勧告)	×
イ) 基準 4 「教育課程・学習成果」に関し、是正勧告が提言されていない。	有	×
ウ) 基準 4 「教育課程・学習成果」の学習成果の測定に関しては、改善課題も付されていない。	有	×

以上